

南のひと 04

写真・文=水野暁子

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を込めて撮影している。



竹富島育ちの小底芽依さんは、高校から八重山を離れて沖縄本島の学校へ進学して行った。時折島へ帰って来ている姿を海辺などで見かけていた。彼女に会えば、「芽依ちゃん元気？ 久しぶり。最近はどうしているの？」などと短い会話を交わしていたので、彼女が高校を卒業した後、上海の大学へ進学して昨年卒業した事は何となく知っていた。

先日、浜で見かけた彼女の背中に太陽のマークが印されているのを見て気になり、撮影させてほしいと声をかけた。

撮影当日、「背中の太陽のマーク似合ってるね」と言ったら、「中心の円の中のマークが、沖縄のマークなの分かりますか？」と言われて初めて気がついた。太陽の真ん中には、沖縄県の県章が印されていた。

この県章は、沖縄県が本土復帰した1972年5月15日から使われている沖縄県のマークで、3つの丸からなっている。一番外側の丸は沖縄県を囲んでいる海、中にある白い丸はローマ字OKINAWAの『O』と人の輪、一番内側の丸は、発展性を象徴しているそうだ。太陽が『海洋』『平和』『発展』のシンボルを囲む印を背負って立つ彼女に、「芽依ちゃんにとって沖縄とはどういうところですか？」と聞いてみた。彼女はスッと伸びたまっすぐな姿勢で「帰ってくる場所です」と力強く答えた。

芽依さんは、現在関西で就職活動中。中国語を活かせる仕事につきたいと話してくれた。

たくさんの経験を積んで、いつか沖縄に帰ってくる日がきたら、再び撮影させてほしいと思っている。

水野暁子 みずのあきこ

1973年千葉県に生まれる。1986年に家族とアメリカへ渡る。1996年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。

- 石垣島写真美術館 Mira にて、「南のひと」シリーズより11点の作品を展示中。2019年1月15日まで。
- 島人へのインタビューをまとめて紹介している YouTube チャンネル「八重山ライブラリー」も。